

第31回公民館祭 4月19日・20日に開催

中央公民館をはじめとする市内の各公民館に学ぶ人々が、この1年間の学習成果を発表・展示する「第31回公民館祭」を、中央公民館と市民会館で開催します。

■オープニングショー

- ▽日時 4月19日(土) 午前10時～10時20分
- ▽場所 市民会館
- ▽内容 ぼちぼち体操・ぼちぼちエアロ(中央公民館)

■公民館の集い

- ▽日時 4月19日(土) 午前10時30分～10時50分
- ▽場所 市民会館

■発表部門

- ▽日時 4月19日(土) 午前11時～午後3時
- 4月20日(日) 午前10時～午後3時20分
- ▽場所 市民会館
- ▽内容

- 19日** 《第一部》 子供朗読・民謡・三味線・大正琴・詩吟
 《第二部》 新舞踊・民踊・日本舞踊・クラシック協会・児童合唱
- 20日** 《第一部》 大正琴・銭太鼓・尺八・箏・女声合唱・混声合唱
 《第二部》 新舞踊・日本舞踊・朗読・詩吟・着付・吹奏楽

■展示部門

- ▽日時 4月19日(土)、20日(日)午前9時～午後4時
- ▽場所 中央公民館、市民会館
- ▽内容 中央公民館および地区公民館で活動する45クラブ・サークルの作品

■企画部門

- ▽日時 4月19日(土)、20日(日)午前9時～午後4時
- ▽場所 中央公民館、市民会館
- ▽内容 盆栽即売、中華料理、お茶席、サンドイッチ、コーヒー、たこ焼き、手作り雑貨一品持ち寄りバザー即売(都合により1日のみ)

■問合先 中央公民館 ☎24・2001



「近世の新町」③ —歴史的雄都の五條—

人の動きは、物の動きを反映します。今回は物の動きを辿ってみましょう。次の(A)表は、寛政8(1796)年10月4日～12月27日の期間に五條地域から紀州高野山寺領の村々へ売却された米の取引量を示しています(『橋本市史；近世史料1』)。全体の取引量が約832石余りと相当な量です。(A)表の中の<その他>の項

(A)	取引量	取引先
五條	582石	紀州の九度山、清水村、馬場村など
相谷村	13	
野原村	10	
火打ノ村	8	
表野村	4.8	
大津村	3.4	
黒駒村	0.8	
その他	223.3	
計	832.3	
備考	野原村以下黒駒村の5か村だけでは27石である。	

は、史料には和州とのみあって、寺領の村々が何処から購入したのか不明なのですが、大半は<五條>からだと推定されます。野原村～黒駒村の吉野川南村々の取引量が27石で少ないのですが、五條村に伝馬所が設置されていた関係上、川南村々の一部は、<五條>商人を介しての取引量582石の中に含まれていると想定されます。

次に、米商人についてです。史料には<五條商人>とのみあるのですが、五條村・二見村・須恵村・新町村などの商人を指している可能性が大きい。(B)表の榎野屋仁兵衛は、五條村商人です。文政13(1830)年の五條を通過する伊勢参りの群集への施行者の一人として史上に姿を見せています(『五條市史；史料』「西口町月行司」)。最大の取引量の犬飼屋儀右衛門も五條村商人と推測されます。河内屋儀兵衛については新町村の商人だと思われます。明和3(1766)年の柏田家文書の「絞油御請書」以降、明治4(1871)年の史料にまで何度も新町村の住民として史上に現れます。一方、

川南村々の商い人として「火打ノ村中西勝右衛門」「表野村新蔵」「黒駒村要助」などが居るのですが、その取扱量は<五條>の商人に比べると0.8石、1.6石などで多くはありません。

これから判断すると、五條地域の商品ルート上において、村レベルの範囲で小商人が存在する一方、町場の<五條商人>のように地域全体の物資を集荷する商人も活動していたことが判明します。ところで、五條村には伝馬所が設けられていましたが、この伝馬所とそのテリトリーをめぐって、紀州橋本町や野原村など川南村々などと訴訟がしばしば発生しました。天明7(1787)年の全国を席卷した有名な天明の打ちこわしが五條村・新町村・野原村にも発生しましたが、その時野原村では米屋善蔵が打ちこわしの被害に遭っています。野原村にも相当な取引をする米商人が居たのです。(A)表の野原村10石は野原村茂平次が取引をしています。野原村の米商人は、<五條>の米商人に拮抗するような手広な商いをしていたと考えられます。詰まるところ、<村レベルを範囲とする><周辺の何か村かの村々を範囲とする><同業者が何軒も競合しつつ宇智郡全体や奥地までを範囲とする>、この3者の米商人の存在と活動を想定することができると思います。こうした存在を背景として、五條村・須恵村・新町村の3村の共同経営の特権的な伝馬所が存在したこととあいまって、諸荷物輸送の有利な活動を展開し、下市・上市を始めとした吉野郡や御所～国中方面との取引や、紀州橋本町を媒介とした河内国・大坂、城下町和歌山方面との商いの結節点の役割を果たしていたのが五條地域だったのでしょう。

五條商人名(B)	取引量
犬飼屋儀右衛門	193石
岡屋安兵衛	140石
二見屋次兵衛	100石
榎野屋仁兵衛	60石
小倉屋権右衛門	49石
住河屋万七	30石
河内屋儀兵衛	10石
計	582石

(新町と松倉豊後守重政400年記念事業実行委員会委員 藤井正英)